

花草木

【キンシバイ】

キンシバイ（金糸梅、学名：Hypericum patulum）は、オトギリソウ科オトギリソウ属の半常緑（半落葉）小低木で、よく茂った濃い緑色の葉に映えるキンシバイの黄金色の花は、初夏から夏へと移り変わる季節を知らせてくれます。枝垂れた枝の先端にうつむき加減に花を咲かせます。

江戸時代に渡来した中国原産の半常緑低木で、古くから観賞用として栽培されてきました。

近年はキンシバイにかわって、花や葉が大型で、長期間にわたって花を咲かせ、生育旺盛な園芸品種‘ヒペリカム・ヒドコート’が、広く栽培されているようです。



大阪市内の公園で咲いていたキンシバイの花

キンシバイ（金糸梅）の花言葉は「きらめき」「太陽の輝き」「秘密」「悲しみをとめる」です。

我が署のスタッフ 岡山森林管理署

田中 惇也（たなか じゅんや）（平成29年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

総務グループで主に管理担当として国有林野の貸付や入林届の担当をしています。令和4年度より3年間の市町村出向を終え国有林野に戻って参りましたが、ブランクもあり、初めての管理担当として手探りですが、周囲の皆さんに助けをもらいながら事務を進めています。

【職場の雰囲気は？】

署の仕事は個々だけではなくチームでの作業が多く、グループの枠を超えた協力関係が大切です。岡山署はとても相談しやすい雰囲気です。仕事もしやすく大変助かっています。今は助けをもらうことが多いですが、皆さんの力になれるよう、日々邁進したいと思います。

【林野庁の魅力は？】

たくさんありますが、出向を通して気づいた魅力として、①転勤として、全国の色々な場所に行くことができる点、②すべての仕事は、森林・林業に通じているところだと感じています。

市町村でも様々な仕事に携わることはできますが、「森林・林業」という大きな軸のもと、全国を回り多様な仕事の経験ができるのは林野庁だけではないでしょうか。



事務所内で執務の様子

森林事務所等紹介

北勢森林事務所（三重森林管理署）

首席森林官 篠原 庄次（しのはら しょうじ）

私の勤務する北勢森林事務所では、三重県北中部に位置する国有林の管理を行っています。

仙ヶ岳^{せんがたけ}国有林や入道ヶ嶽^{にゅうどうがたけ}国有林など、登山者にも人気で魅力的な山々が連なり、晴れた日には市街地の向こうに伊勢湾を望むことができます。登山道からはフクジュソウやシロヤシオなどの植物も見ることができ、四季折々の自然が楽しめます。春の新緑や秋の紅葉は特に美しく、野鳥



仙ヶ岳「仙の石」



入道ヶ嶽国有林から望む市街地と伊勢湾

や小動物に出会う機会も多く、県内外から多くの登山者が訪れる人気の山々です。

一方、入道ヶ岳や御在所岳^{ございしょだけ}などの鈴鹿山脈は、中級者向けで遭難や滑落事故も多く発生しているので、登山の際は十分な注意が必要です。

こうした自然豊かな山々に囲まれた中であって、三重県最北部、岐阜県境のいなべ市には、人工林が多い悟入谷^{ごにゅうだに}国有林があります。この国有林は、三重署管内の中でも伐採や造林などの事業の中核を担う場所となっており、県内外から多くの現地視察を受け入れるとともに、みえ森林・林業アカデミーの市町職員講座や中学校の職場体験学習の場として活用し、森林・林業の普及、啓発を行っています。



市町職員講座



中学校の職場体験

このような場所ですが、シカによる森林被害が深刻となっており、シカによる苗木の食害を防ぐため、防護柵の設置を行うとともに、その後の重要な作業として、巡視、メンテナンスもあわせて実施しています。大雨の後は、特に流出した土砂がネットの目に詰まり、防護柵が倒れてしまうことがあるので、スコップやクワを担いで現地に出向き、土砂を撤去しています。地道な作業ですが、植えた苗木を守るために欠かせない重要な仕事です。

今後も、国有林のPRとともに、丁寧な巡視とメンテナンスを重ね、森林を守っていきたいと考えています。



防護柵の土砂撤去

シリーズ『国有林 最前線！』

ノウサギ被害対策について

広島北部森林管理署

広島北部森林管理署では、近年、造林地が増加している中、令和4年度にノウサギ食害が発生し、以降毎年のように改植が必要なほどの被害が確認され対策に苦慮しています。

確認された被害の特徴として、造林地林縁部の植栽木が食害されていること、林縁部から約10m以上離れた造林地中心部は被害が確認されていないことが分かってきました。

そこで、令和6年度に通ヶ谷山国有林（広島県神石高原町）において、被害対策の試みとして、シカ用スカートネットを使用した防護柵の設置するとともに、造林木の下刈りを坪刈で実施しました。

結果は、再び被害が確認されてしまっている状況ですが、ノウサギの進入の原因は、スカートネット防護柵のため高さがノウサギが飛び越えられる低い場所があったことや網目が5cm網目と大きかったことではないかと考えています。

そこで令和7年度事業においては、下の野兎対策の【標準図】を参考に幅1.5mのアニマルネット（目合1.6cm）をL字張りし、鉄筋支柱を用いた地上高1.0mの仕様を考案し、改植や補植の予定地での設置を計画しています。

今後は自動撮影カメラを設置し効果を検証しつつ、リスクの高い伐区は当初から対策を講じたうえで植付する等の取組みが必要かと考えています。これらの取組みを検証・実践しつつ有効な対策を確立し、ノウサギ被害防止に取り組みたいと考えています。



ノウサギ食害の現状 (R7. 5. 27)



アニマルネット
(R6. 10. 31 森林整備課講習会写真)

野兎対策防護柵【標準図】

